

医療・福祉

コロナ対策LINE

県が相談と発信

県は、新型コロナウイルス感染症に関する相談

対応と情報発信のため、「群馬県新型コロナウイルス対策パーソナルサポート」を開始した。県の各種デジタル手続

き(登録、申請など)機能を公開する場(プラットフォーム)として、群馬県LINE公式アカウント「群馬県デジタル窓

口」を新たに開設。同窓口と「友だち」になり、「新型コロナウイルス対策パーソナルサポート」の登録・変更メニューから情報を

登録し、「感染が心配な方」メニューに入り質問に答えると、健康状況に応じた適切な相談先が案内される。県内で陽性患

者が確認されると、登録者に通知される。詳しくは県感染症危機管理室(☎027-226-3467)へ。

植物工場で障がい者支援

21年4月「ソーシャルハウス藤岡」オープン

NPO法人ソーシャルハウス



高崎の施設で完全人工光の下、栽培されているレタス



瀧澤理事長

NPO法人ソーシャルハウス(高崎市上豊町、瀧澤啓理理事長)は、21年4月に「ソーシャルハウス藤岡」(藤岡市浄法寺1279-1)をオープンする。定員20人の就労継続支援B型事業所で、完全人工光型植物工場を設け、野菜の水耕栽培を実施する点が最大の

特徴。同施設は敷地面積約1090平方メートル、建物は鉄骨造平屋建てで床面積約495平方メートル。施設内に完全人工光型植物工場を設け、野菜を水耕栽培する。温度「光」肥料成分などの生育環境を自動制御し、年間を通じてレタスの安定生産を行い、利用者が安定した工賃収入を得ることができるとしている。1日に250個のレタスを収穫予定だ。

瀧澤理事長は制御盤の設計・製造などを手掛けた成電工業(高崎市上豊岡町571-9)の社長でもある。同社では野菜栽培装置の開発を10年に

始め13年には野菜栽培工場システムとして販売を開始した。当初は工場の空きスペースなどでの利用を見込んでいたが、障がい者施設からの問い合わせや導入が多かった。

障がい者施設では野菜栽培を行うケースは多いが、天候に影響され収入が安定しない点や利用者の熱中症の可能性などリスクが高かった。対して

屋内の野菜工場であれば、利用者の体調面の心配も少なく、収入も安定し、土に触れないため清潔も保たれる。現在では全国25施設に導入されている。

瀧澤理事長は地元高崎の障がい者支援につながるべく、15年に同NPOを設立し、同所に野菜工場のある就労継続支援B型事業所を開設した。野菜生産は種まき、植え替え

収穫までが5週サイクルで繰り返される。現在、リボンレタス、グリーンリーフ、フリルレタスの3種類のレタスを栽培。1日300個の収穫があり、フレッシュイヤーホテル

に納入している。瀧澤理事長は「藤岡の障がい者保護者会が高崎の施設を見学に来て、藤岡でもやってほしいと言われたのが新施設のきっかけ。今は高崎の利用者家族からの要望で、敷地内に6棟のグループホーム建設を予定している」と話している。(山田誠二)

進化型デイサービス誕生

ダブル高日

日高では次世代型デイサービスとして、「要介護は要支援に」「要支援は自立に」「自立からはよ

サービス」という設定。次世代型は、決まったプログラム内容から選択する方式。しかし、今

ニーズ(歩行のために下肢筋肉アップを図りたいなど)を持った人同士をグループ化。明確な目標

在も作り続けているスベインのサグラダファミリアの建築家にちなんだチボール、ドローン、ヨガなど、アクティブな

ら者設ニ



出張授業をする堀越社長(中央)

小学校で出張授業

ごみや環境の知識伝える

丸越

廃棄物収集などを手掛ける丸越(前橋市若宮町、堀越正和社長)は7月29日、前橋市立若宮小学校で、ごみや環境に関する知識を深めてもらうと出張授業を行った。4年生24人が参加。同校では六供清掃工場への社会科見学を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。これに代わるものとして、地元業者であ

る同社へ出張授業を依頼した。授業では従業員佐藤愛美さん手作りの資料を使いクイズ形式でごみについて学習。清掃工場の仕組みや分別の大切さを伝えた。その後、ごみ回収WEBオープンキャンパス高崎健康福祉大高崎健康福祉大学(高崎市中大類町37-1)は、8月22日と23日にWEBオープンキャンパスを開く。時間は両日とも午前10時から午後5時30分まで。

の者公に23日